

おのれしょ 筆文字アート「己書」～えはがきをおくろう～

令和4年12月11日（日）

○目的

古来より日本では“書”を通じて気持ちや考えを自由に表現し、あるいはそれを相手に伝える手段としてきた。ネットや SNS の普及により、連絡先を知らないひとや面識のないひとと繋がったり、即時にメッセージを送ったりすることが容易になった昨今、想いを込めて「手紙」を書く（送る）経験や機会が極めて少なくなっている。本事業は、筆ペンを使った「えはがき作り」を通して書に親しむ機会とするとともに、手紙を書く体験の場とすることを目的とする。

○参加者

小学3～6年生 20名（男子：3名、女子：17名）

○本事業の特徴

講師として日本己書道場の師範を招き、講師の指導の下、筆ペンや水彩絵の具を使ってえはがき作りを行った。また、郵便局員による講話と宛名書きの指導を受け、自らの作品に宛名書きをし、ポストへ投函した。

○事業の内容

（1）えはがき作り

日本己書道場 道場師範 心粋（きらめき） 己書道場 代表 渡邊 恵子 氏

「ありがとう」「漢字一文字（愛・楽・輝・夢）」「賀正（年賀状）」の3種類の作品を作った。いずれも講師の書き方の指導やお手本を真似ながら、練習を行ったあとに画仙紙はがきに清書をした。



（2）手紙のはなし

御殿場郵便局 郵便部 課長 松本 高典 氏

ポストの種類や変遷、郵便局で稼働している大型機械や郵便番号の仕組みについての講話を受けた。郵便物にブラックライトを照らしてバーコードが浮かび上がってくると、参加者は驚いた様子だった。



(3) えはがきをおくろう

郵便局の資料「あて名書きテンプレート」を活用しながら、自分で作成したえはがきのうちの1枚に、宛名書きを行った。そのはがきを交流の家に設置されているポストへ投函し、その際にポストの中も見せていただいた。



(4) 作品を展示しよう

作品のうち1人1枚ずつ作品を台紙に入れて展示した。作品とともに写真撮影をする姿もあり、達成感や満足感を得た様子が見られた。



○参加者の声（事後アンケートより）

- ◆ 年賀状やえはがき、手紙を送ってみたい。
- ◆ 日常生活で筆ペンを使ってみたいと思った。
- ◆ 習字をやってみたい。
- ◆ 自分ではがきを送ることができるようになった。

○アンケート結果の考察

えはがきや手紙、年賀状等を書いたり送ったりしたことが「ない」と回答した参加者が多かったが、事業を経て、今後、「送ってみたい」と意欲の変化が見られた。また、今回使用したのは筆ペンであったが、文字を楽しく自由に表現する体験が、習字や文字を書くことに対する興味・関心のきっかけにつながったと考えられる。

○成果・課題

- 講師の手本を見ながら練習して清書するというのが基本的な流れであったが、筆の扱いに慣れてくると、イラストにオリジナリティを出したり、「この字を描きたい！」と講師にリクエストしたりと、筆ペンでの自由な表現による作品作りをすることができた。
- 友人同士や姉妹での申込が複数あったが、学校や学年がバラバラになるように班を構成した。個人作業のプログラムが主ではあったが、「その色いいね！」「うさぎかわいい」など作品作りの中で交流し、新たな友人関係を築いている様子が見られた。
- 宛名書きに予定以上の時間を要した。その要因の一つとして、相手の住所については予めメモをして持参するよう案内していたが、自分の住所がわからないという参加者が多かったことが挙げられる。宛名書きを通して、書き方だけでなく自分の住所を確認する機会にもなるので、今後は予め自分の住所のメモを持参してもらうなどの検討が必要だと考える。